

天使の梯子^{はしご}

作詞 J'Soul (浅羽一)

時計台の鐘が鳴り土の中の蝙蝠^{こうもり}が目を覚ます
吊り橋から飛び降りた石造りの猿は白い無を吐く
青い煙を撒きながら鋼鉄の馬車が 蹄^{ひづめ}の音高く闇を駆け
朝霧^{あさぎり}の中から取り出した太陽を 雲の隙間から空に返した
天使の梯子に手を掛けた人の
被った帽子に生えた苔^{こけ}が 緑に光る
ざわめきと歌う片目の鳥^{からす}が
紅い瞳から涙を零し 水溜まりには世界が踊る
眩しさに染まる頬を撫でた透明な羽を
通る光が虹に変わる
七色の絵の具を重ねた画家の前では
裸の画布が筆^{あいぶ}の愛撫を待っていて

薬指の誓約が繋ぎ止める幸せは欠けていき
色紙^{いろがみ}を貼り付けた夢の景色がそっと剥がれて散る
セピアを映す煉瓦の街並みから届く 笑い声遠く窓をすり抜け
油絵を並べたただ広い寝室で 揺れる蠟燭^{ろうそく}の火を吹き消した
天使の梯子に手を伸ばす人の
ポケットに潜む思い出^{おもひ}から 時間が落ちる
波音^{なみおと}と眠る一羽の鴉^{かみめ}が
黄色い嘴^{くちばし}に羽をくわえ 海の鯨^{しお}の潮をなぞった
輝きを願う胸に触れた透明な羽を
浮かす空気が風に育つ
七色の絵の具で彩る窓の影では
無色の裸婦が画家と口付けを交わして

天使の梯子を上る人が見下ろした 天使の梯子が辿り着く先には
一つの画室が明るく照らされて
ここで生まれた油絵がまた この街の片隅で壁に飾られる

溢れ出る羽を集め結^ゆった透明な筆を
抱いた右手に星が宿る
七色の絵の具を合わせた一枚の中
誰かが泣いた夢も優しく微笑んで